

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つなぐ		
○保護者評価実施期間	R7年 3月 3日		～ R7年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25家庭	(回答者数) 18家庭
○従業者評価実施期間	R7年 3月 3日		～ R7年 3月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの意思決定の尊重	・日々の何気ない選択の機会を大人が決めるのではなく、子どもと決めるという意識を全スタッフが持っている。	・子どもの意思決定を支えるために、子どもたちへのコミュニケーション支援を充実させていく。
2	・全スタッフが意見交換できる風土	・会議の場でのスタッフの発言も否定せず意見交換できるよう意識して全員が参加している。	・継続して実施していく。
3	・活動プログラムの立案に全スタッフが関わっているところ	・活動プログラムが固定化しないよう、毎月運営会議や職員会議で意見交換を行っている。	・発達5領域に合わせてより質が高く目つ子どもたちにとって魅力的な活動を創造していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域参加、地域連携への参画	・地域との連携に必要な情報が不足していたり、職員の想像力が及ばない部分がある。(経験不足)	・法人理念にある地域福祉の推進に向けて、どのようなことができるのかを検討していく。
2	・職員人数の不足への対応	・慣れない職員向けに“サポートファイル”という子どもの情報をまとめたツールを用意しているが、十分とは言えない部分もある。	・タイミーワーカーやボランティアを活用しているが、子どもの特性上対応が難しくなりがちである。できる限り担当するお子さんの情報を的確に伝えられるよう、情報ツールを整えていく。
3	・活動スペースが子どもにわかりやすくなるための工夫	・集団活動への参加が苦手な子どもが多いため、利用中に子どもの参加率が一番低くなりがちになっている。	・活動全体の提示の仕方、進行の仕方は常にPDCAサイクルに乗せて改善を図る必要がある。その日に来る子どもによって提示の仕方も工夫していく。